

# 文化の風物市

開港以来、様々な異文化を取り入れ、都市の様相を更新してきた「ヨコハマ」のまちで、複雑な文化の移り変わりや様々な文化的活動の集積が、地上から立体的かつ連続的に展開されることで、港の風景を迎え入れるようなダイナミックな都市風景を築き上げていく。

これらが時間とともに「ヨコハマ」のまちに現れることで新たな風景をつくり、都市の風物詩となるような「文化の坩堝」としてのカルチャー・マーケットを提案する。



夜はビアガーデンやカーニバルで盛り上がる巨大な宴会場として港の風景を迎え入れる。



三次元的に走行する縦ガイドに対して様々な文化活動が展開され、ダイナミックな都市風景を築き上げていく。

## 01. 文化に反応するまち - ヨコハマ -

19世紀に横浜港が開港して以来、日本の海の玄関口として「ヨコハマ」には国内外から人やモノ、様々な文化が入り込んできた。山手には外国人居留地、元町には中華街ができた。このまちの日常の風景の中に様々な文化が展開し、その度に様相を更新してきたまちである。



## 02. ヨコハマ・カルチャー・マーケット

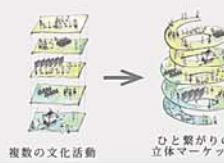
「ヨコハマ」の様々な文化的活動が集積し、このまちの新たな風景となるような「文化の坩堝」としてのカルチャー・マーケットを提案する。



ヨコハマ・カルチャー・マーケット

## 03. ひと繋がり立体マーケット

様々な文化をひと繋ぎに連続させ、都市の中に立体的に展開することで、それぞれの文化活動が関係し合いながら一つの風景になっていく。



GL+6000mm: 大通りやカーニバルが行われることで、大勢の人々が集う巨大な広場となり、日々その表情を変化させていく。

GL+12000mm: 生い茂る樹木の高さに作られたプロムナード。山下公園と接続し、ヨコハマトリエンナーレが行われる。

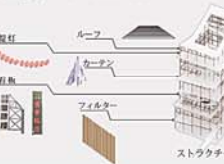
GL+18000mm: 中華街の方向へ抜ける風景。道交わりで様々な物産展が開かれ、街の立面に賑わいを作る。

GL+30000mm: 海の見える空中デッキ。市民のための古本市や、シアターホールとして使用され、海側の風景を作っていく。

GL+36000mm: 横浜の面が一望できる展望デッキ。近隣の風景を見渡すだけでなく、港の一つとして風景を共有していく。

## 04. 都市環境に開くシステム

周囲の環境に対して柔らかいフィルタで場を作りながら、看板・広告などの都市的要素を付随させることで、時間とともに移ろうまちの表情をつくる。

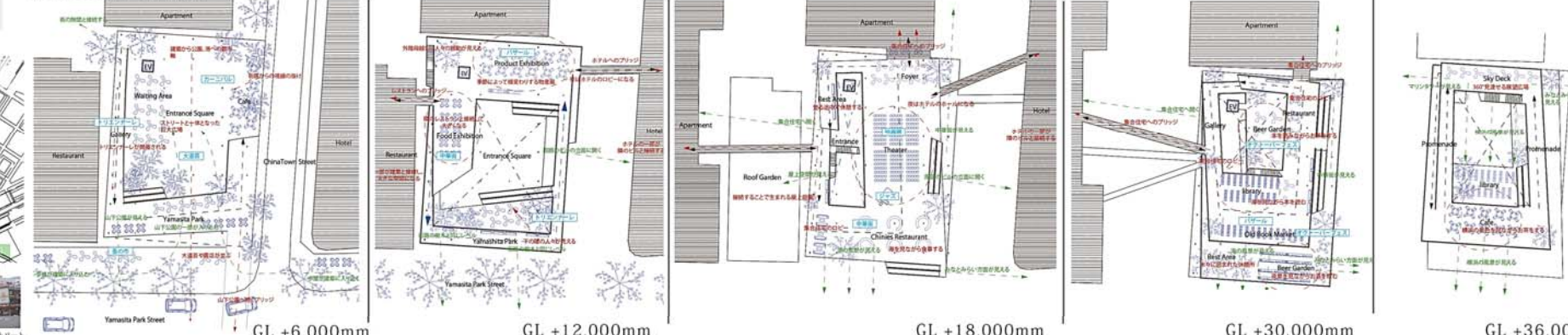


## 05. 豊かな風景都市 - ヨコハマ -

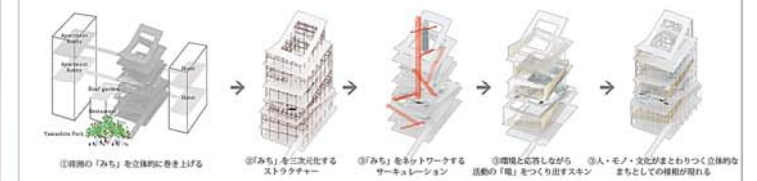
海・緑地などの自然環境や、このまちの様々な風景軸の交点に位置することで、多様な文化的活動の新たな拠点としての役割を担う。



## 04. PLAN S1:500



## 02. 立体的な「道」の構成



## A-A Section S1:400

